

## シンポジウム 次世代の表現と可能性5

# 「アジアに飛びだす建築家が提示する新しい造形」

## 21世紀の建築と都市空間はどうなるのか

100年前に勃興したモダニズムは、産業革命後の社会の変化を受けながら、鉄・ガラス・コンクリートなどの新しい素材と構造を用い、近代の感性を反映した建築を生みだした。しかし、現在は、グローバリズムが引き起こす国境を越えた仕事の環境、コンピュータの発達をもたらす設計、生産、施工の変容など、かつてなかった新しい状況が、われわれをとりまいている。そこで今回は、アジアに飛びだす次世代の建築家を招き、空間と都市の可能性について討議したい。

シンポジウムでは、台湾で先鋭的なプロジェクトを発表したほか、高雄の国際コンペでは最終審査に残った平田晃久氏、デジタル・テクノロジーを活用したデザインを行いつつ、日本と台湾を行き来する豊田啓介氏、上海に拠点置きながら、日本を含むアジア各地で活動を展開し、新しい空間構成を探求する佐伯聡子氏を迎え、次世代の表現と可能性について討議する。

総括

五十嵐太郎（東北大学大学院教授）

「からまりしろ」としての建築

平田 晃久（平田晃久建築設計事務所代表）

時間を取り込む技術

豊田 啓介（noizパートナー）

この場所から見える事

佐伯 聡子（KUUパートナー）

主催 日本建築学会 関東支部

日時 2011年11月11日（金）18:30～21:00

会場 建築会館ホール（東京都港区芝5-26-20）

定員 200名（当日先着順）・参加費 無料